

新規事業で目指す地域介護の充実と国際貢献

介護老人保健施設ローズガーデンを運営する医療法人心泉会は、ローズガーデンを拠点とした、主に介護職を対象とした外国人技能実習生の受け入れや支援などの監理業務を行う協同組合（監理団体）と、実習生の入国後講習を行う研修センターの設立を目指して準備を進めています。令和2（2020）年11月からは、先行して介護技能習得を目指す2人の中国人技能実習生をローズガーデンで受け入れ、教育体制の充実も図っています。新規事業立ち上げの経緯や目的、目指す姿について聞きました。

県内老健支援と国際協力

外国人技能実習制度は、開発途上国等の経済発展を図るため、外国人技能実習生を受け入れて日本国内で技能・技術・知識を伝え、母国に還元してもらうための国際協力を目的とした制度です。平成29（2017）年11月の技能実習法施行に合わせ、対象職種に介護職種が追加された当時、全国介護老人保健施設協会理事で、長野県支部長

も務めていたローズガーデンの上條節子施設長は、全国の介護老人保健施設（老健）で外国人技能実習生を受け入れることを提案しました。慢性的に介護人材が不足する現場で、多様な人材が得られると同時に実習生を指導することで現場スタッフのスキルアップも図れると考えたからです。ただ全国組織ともなると導入は簡単ではなく、また受け入れ施設側の手続きの煩雑さや費用負担の重さなど課題も

多く実現には至りませんでした。同時期に県支部の事務局長を務めていたローズガーデンの赤羽美雪副施設長は当時、上條施設長から制度導入について相談を受けていました。ただ、受け入れ側の負担の重さや制度への懐疑的な思いがあると同時に事務局長という多忙さもあり、導入には消極的だった。転機に

務局の業務を退き精神的にも業務的にも余裕ができた2年ほど前。改めて制度について調べると、中国出身である赤羽副施設長であれば、対象国を中国に限れば言語や生活習慣、文化の差などから生じる問題はクリアしやすいこと、制度本来の目的である「人づくり」で母国中国の高齢化に寄与できること、県内老健の人材不足解消の一助になることなど、さまざまなメリットが見えてきました。ローズガーデンには地域貢献事業として介護人材育成に力を入れていく実績があり、教育基盤は整っています。そして事業の立ち上げに必要な人材もそろっている

。最終的に決め手となったのは、立ち上げメンバー全員が、理念が一致していたことでした。現在、赤羽副施設長を中心に、中国での介護コンサルティング経験があり介護人材育成を担う大野友之事務次長、日本語講師の張玉欣さんが新事業開設準備室担当としてプロジェクトを進めています。

事業内容とメリット

施設側が実習実施者として外国人技能実習生を受け入れる場合、施設側にはさまざまな経費がかかるうえ、監理団体（技能実習生との間の雇用関係の成立のあっせんや施設側への指導、技能実習生の相談対応などを行う非営利団体）に組合監理費を支払う必要があります。この組合監理費は団体ごとに異なるため、施設側としては監理費が安いほど利用はしやすくなります。そこでローズガーデンでは、

監理費を可能な限り抑えることで、各施設が技能実習生の受け入れをしやすくしようと組合設立計画を立てています。老健協の事務局経験のあるローズガーデンが監理事業を担うことで、県内およそ100カ所の老健に漏れなく案内ができるほか、研修センターをローズガーデンに置き日本語講師が常駐することで、技能実習生にとっても受け入れ施設側にとっても相談しやすい環境が確保されます。

地域に根差す医療法人としての信頼と経済的基盤、老健協支部事務局を担った実績と幅広いネットワーク、長年にわたる介護人材育成実績のあるローズガーデンだからこそ可能な事業であり、上條施設長は、「県内老健の力になること、地域貢献ができるのがなにより目的



外国人技能実習生の受け入れ、教育等を担う新規事業の立ち上げに向けて意見を交わす上條施設長（写真左から2人目）と担当の赤羽副施設長（左端）、大野事務次長（右端）、張さん

なりました。転機に

中国の高齢化社会を担う若者を育成

介護職種の技能実習においては、入国時に日本語能力試験N4（ゆつくりであれば日常会話が可能）程度の能力が必要とされています

。普段は施設付属の職員寮で自炊生活をし、休日には外食をしたり、松本の市街地や温泉に行ったりして息抜きも楽しんでいきます。現在も通信教育で日本語の勉強を続けている汪さんは、中国に帰国後は

の技能実習生第1号として、確かな実績を残しています。

が、ローズガーデンで実習中の汪雲躍さん（24）と程強さん（23）は、中国の短大で日本語を学んでいたこともあり、それぞれN2、N3を取得しています。コミュニケーション能力も高いため職場の人間関係も良好。介護技能の習得も早く、入国から1年ほどですが、高い技能と知識が求められる老健で、先輩につ

いて夜勤シフトにも入れるほどに成長しています。普段は施設付属の職員寮で自炊生活をし、休日には外食をしたり、松本の市街地や温泉に行ったりして息抜きも楽しんでいきます。現在も通信教育で日本語の勉強を続けている汪さんは、中国に帰国後は介護や日本語を教える教師になりたいといいます。おばあちゃん子でお年寄りが大好きという程さんは、母国の高齢者を幸せにするために中国でも介護の仕事が続けることが目標。2人がローズガーデン



日本のアニメやドラマ、小説も大好きという汪さん（左）と程さん

医療法人 心泉会

上條記念病院 松本市村井町西2-16-1 TEL.0263-57-3800 (代)
介護老人保健施設 ローズガーデン 松本市中山7494-8 TEL.0263-57-8002
グループホーム ローズガーデン

社会福祉法人 心泉会 特別養護老人ホームローズガーデン／短期入所生活介護ローズガーデン
ケアハウスローズガーデン／住宅型有料老人ホームローズガーデン

です。ぜひ行政にもご理解、ご協力をお願いしたい」と話します。赤羽副施設長は、「日本は介護先進国として世界的にも評価されていて、高齢化問題が待たなしの中国も注目しています。中国の若者に、自立支援や尊厳を大切にする日本の介護の理念や技能を学んでもらいたい。中国でその考えを根付かせてほしい。それが真の技能実習制度が目指すことだと思えます。そして海外に介護事業が広がれば、いずれ日本人が海外で活躍する場も増えるはずでは」と高齢化のピークが過ぎた後の日本の未来も見据えています。